

# 月刊島民

中之島

Vol.127 2019 2/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

クリエイティブ・アイランド



ナカシマ大学

「東京vs大阪  
地形自慢バトル」

皆川典久 新之介

申し込み受付中

# アイランド・ラボ 中之島

- 1 ジェット「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」が進行中だ。
- 2 するミュージアムやホールなどの文化施設と協力し、それぞれの個性を活かし合う
- 3 での模様と現時点での成果、そして今後の予定まで見てみよう。



8月



with 堂島リバーフォーラム  
「水」をテーマにした  
現代美術展 鑑賞ツアー

## 「世界の都市の中の“島”」

パリのシテ島やベルリンのムゼウムスインゼルなど、世界各地にも中之島と似た文化芸術・学術拠点を軸にした創造的な都市開発の好例は数多い。建築史家の五十嵐太郎さんが、海外の文化島の事例を紹介しながら中之島の可能性について探った。

10月



with 大阪中之島美術館  
「描かれた中之島  
—大阪新美術館の  
コレクションから」

11月



with 中之島雪雪美術館  
「ホンマタカシ×  
家成俊勝×大西巧  
現代の表現者が語る  
茶の魅力」

## 中之島を結ぶプログラム

# Collaboration

—中之島周辺の文化拠点との連携企画—

「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」の大きな特色は、アートエリアB1と文化施設がコラボしたさまざまなプログラム。中之島と中之島、すなわち島民同士がつながることによって、このプロジェクトの下支えとなる人と人のネットワークが生まれようとしている。

2018

7月



with 水辺のまち再生プロジェクト  
「水辺の自由使用のススメ  
～NO BORDER,  
BE WILD.～」

Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab

## Interview

### クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島とは？

木ノ下智恵子さん  
(アートエリアB1運営委員・大阪大学 共創機構社会学共創本部 准教授)

「まずはプロジェクトの経緯を教えてください。」  
中之島では今も都市開発が続いていますが、その一環として京阪電車の中之島線が開業し、それに伴う工事現場の段階からアートエリアB1が立ち上がりました。当初は「工事現場でやるなら面白いな」といった社会実験的なもので、その後の10年は継続的に事業を実施するための拠点運営が課題でした。

今回のプロジェクトをスタートさせる可能性が芽生え始めたのは2015年頃からです。JST(科学技術振興機構)の公募で科学技術コミュニケーションに関するネットワーク事業に大阪大学が採択され、そのハブ機関としてアートエリアB1を活用することになりました。それまでのアートとは違う分野や社会的課題の解決につながるプロジェクトに取り組み中で、中之島まちみらい協議会などと共に「中之島夜会」と題して島の中のネットワークを築くプログラムを実験的に行いました。その際、中之島全体をつなぎ、発信していくことの必要性和実現の可能性があると感じたのです。

今回の「クリエイティブ・アイランド・ラボ」というコンセプトや、パリのシテ島などの都心の島という世界的観点で中之島を捉える視点は、そうした協働によって生まれてきたものです。それを踏まえて、より多くの組織が参加する本格的なネットワークを築き、アートエリアB1がその拠点となるべく、文化庁の事

# クリエイティブ

京阪電車なにわ橋駅のアートエリアB1において、新しいプロ  
中之島全体を一つの創造的な研究所と見立て、中之島に立地  
プログラムを企画・開催している。そんなプロジェクトのこれま



with 大阪市立東洋陶磁美術館  
「現代アートと  
古陶磁との出会い」



with 国立国際美術館  
「ナイトミュージアムツアー  
80年代とは何だったのか」



with 適塾 & graf  
「歴史文化施設と  
ブランディング」



with 適塾 & 大阪市立科学館 &  
大阪府立中之島図書館  
「大阪の学問・  
科学史をたどる」

## 2019

### 1月 中之島リサーチプログラム:島袋道浩 「中之島の水辺の使い方」

国内外の美術館や芸術祭で海や川、水にまつわる作品を多数発表し  
てきたアーティストの島袋道浩さん。自身のリサーチプロジェクト(P4)を通  
じて見えてきた中之島の水辺の活用法について、さまざまなゲストを迎え  
て語り合った。



with 大阪府立国際会議場  
「“中之島MICE”の  
可能性をめぐって」

12月



with 大阪市中央公会堂  
「アートでひもとく  
中央公会堂の100年」  
企画展ツアー

### 中之島リサーチプログラム:饗庭伸 「都市計画の視点で巡る中之島フィールドリサーチ」

人口減少時代における都市空間の変化や都市計画のあり方につ  
いて研究する饗庭伸さん(P4)。都市と人との関係性の掘り起こしや再編  
成を考察するためのワークショップの要素も取り入れながら、中之島エ  
リアで行ったリサーチの結果を報告。



with 大阪市中央公会堂  
「森村泰昌の  
『映像—都市』論  
—上映とトークによって、  
大阪を読み解く—」

Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Isl

業として行うというのがこのプロジェクトです。

「アートエリアB1と言えはアートやキュレーション  
というイメージだったのが、少しずつ外部へ広がっ  
ているですね。」

そうですね。多くの人が関わりながら新しい場を生  
み出し、その人格を育てていくためには個別の組織の  
論理を超えた公的な目的がなければ運用してはいけま  
せん。今回のネットワーク事業に関しても、それまで  
のJST事業の3年が実績となり、まちなみらい協議会  
や賛同してくださった施設や企業の方からの理解と信  
頼を得られたのだと思っています。

「単なる中之島内のコラボイベントに終始するの  
ではなく、アーティストや研究者によるリサーチを交え  
ている点が特徴的ですね。」

連携企画がスタートする前段階で計15ヶ所の施設に  
ヒアリングを行ったところ、それぞれに独自の課題が  
あることがわかりました。それは美術館の運営など逃  
れられない基本的なミッションがあり、ネットワー  
クや島全体のことを考えることが大事だとはわかってい  
ても、マンパワーの問題などから自らが率先して手が  
けるのは困難ということです。

その中で、アーティストや研究者によるリサーチを  
行うことにしたのは、彼らが常識や社会的ニーズとは  
まったく異なる次元で、その場所の課題やポテンシヤ  
ルを見つけ出す能力が極めて高い存在だからです。ク  
リエイターたちが中之島という場の魅力や歴史的背景  
に触れた時に何が出てくるのか？ 自分たちの場所と  
いう逃れられないものがある施設の人たちが持つ強さ  
と共に、中之島を俯瞰して別のポテンシヤルに気づか  
せてくれる異邦人的存在が必要だと考えたのです。

「リサーチとはどのようなものなのでしょうか？」

写真家や美術家、デザイナー、言葉を紡ぐ演出家、

by 野口里佳 (写真家)

野口里佳さんは徒歩で、船で、自転車で、朝夕など異なる時間帯に分けて周遊。さまざまな季節の中之島を撮影中。また、中之島を俯瞰できる場所をリサーチし、高層ビルから撮影をしたり、セスナ機からの空撮も行っている。



しまぶく  
by 島袋道浩 (アーティスト)

島袋道浩さんの頭に浮かんだのは、アートエリアB1の上の護岸から対岸にある北浜テラスへ向かうスワンボートを使った「渡し船」。船会社や水辺協議会に実現可能性や水辺の状況についてヒアリングを行い、実際にスワンボートを借りての実験も。



あいはしん  
by 饗庭伸 (首都大学東京教授)

人口減少時代の都市問題の研究で知られる饗庭伸さんは、中之島を考えるイメージとコトバと人に注目。この3つの組み合わせから、中之島の課題をあぶり出そうとしている。



現在進行中!

# Research

—アーティスト／研究者による  
中之島フィールド・リサーチ—

クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島のもう一つのコアは、さまざまなジャンルのアーティストや研究者によるリサーチ。現在も進行中の各プロジェクトの成果は、今春以降にwebサイトを中心に発表される。客観的かつ独創的な視点によって、中之島の新たな可能性が浮かび上がってくるはずだ。

by 小池アイ子 (グラフィックデザイナー)

このプロジェクト全体を俯瞰できるウェブサイトづくりを担当している小池アイ子さん。連携する15の施設へ足を運び、イメージを膨らませていったという。アドレスはこちら→<https://nakanoshima-lab.jp/>



by 岡田利規 (演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰)

by 宇川直宏 (現在“美術家”/「DOMMUNE」主宰)

※2～3月に予定

ive Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island Lab Nakanoshima Creative Island L

都市問題の研究者、ジャンルはバラバラですが、中之島のことをほとんど知らない人にあえてお願いしています。その方が客観的な立場で中之島を捉えることができると思っただけ。みなさんには「まずは散歩をしてください」と依頼して、何度か歩いてもらったり、船に乗ってもらいながら、リサーチや研究を進めてもらっています。

面白いことに、「そんなに課題はないよね」と全員が口を揃えて言うんです。特別に何か困っているわけでもないし、むしろ中之島公園なんてすごく豊かな感じがする。こんなに大企業が立地していて美術館もたくさんあって、「何が問題なの？」と。それはそうなのですが、課題解決ではない創造的視点でフィールドを捉え直すと、島袋道浩さんがスワンボートを活用するプランを出してきたり、野口里佳さんは中之島公園を掃除している人たちに着目したり、私たちが見ているモノゴトとは違う中之島への眼差しが出てきています。

——アウトプットよりも、新たな課題や魅力の発掘が主眼ということですね。

現在、日本各地でアートプロジェクトが行われ、アーティストたちが招かれているのは、過疎化や限界集落などの社会的課題に対して、アーティストの想像力とアイデアが期待されているからでしょう。私たちのプロジェクトでは、そうしたアーティストの職能を信じていますが、結果にはこだわっていません。それはこれが「都市の地質調査と再耕事業」であり、アーティストはそのリサーチャーだからです。

今後、美術館や文化施設と現代のアーティストがパートナーシップを組んだりするとさらに面白くなると思います。組織としてしか動けないところを、アーティストが横断的につないでいくようになれば面白いですね。



せんが、いい意味で脱力感のある、肩肘張らないで話を聴けるのがよかったです。しかも、その話も別にどこかへ着地させなければいけないわけでもなく、なんとなく終わってみたい。そういう意味で、私たちが毎回の美術展に合わせて開催している講演会とはまったく別の系統の場で、美術館のことを紹介できたのはとてもいいことだったと思います。来られた方もふだんのお客様とは違って、それがまた次につながってほしいなあという感想を持ちました。

**木ノ下** おそらく茶道の世界も本来はそれほど堅苦しいものではなく、野点なども含めてもつと自由で朗らかなものだったと思うんです。それは伝統芸能すべてに言えることかもしれません。が、流派や流儀が生まれることによつて評価や価値も上がる一方で、高尚な印象にならざるを得ないところがある。それを現代のアーティストやせんぜん違うジャンルの人間が、「流派などはいくわからなければ、自分なりにやってみる」と言いながらさまざまな作法に触れてみることで、もつと違う展開や広がり生まれるんじゃないかな。かと思つたわけでは、敷居を下げる」といったことではなく、レベルはそのまま維持しながら、茶道が本来は個人と個人の関係であつたということを擬似的に再現できるんじゃないかな、と。

**大迫** なるほど。それはフィールドリサーチでも試みている(P4)ものですね。アートエリアB1が関わることで新しい視点が生まれる。単なる「異色のコラボ」とかではなく、アートやアーティストを紹介して中之島内につながりが生まれていくのが、このプロジェクトのキモなのでしょうね。3月に連携企画が予定されている(P9)大阪中之島美術館の場合はどうでしょう？

**植木** 実は同じようなことを私たちが意識していたんです。もともと大阪市が30年以上前に新しい美術館をつくらうと動き始めた当初は、もつと大きな構想でした。それは施設の規模だけではなく、出版の部署を持っていたり、機能の面でも充実したものを想定しながらスタートしたんです。ご存じの通り、その計画は財政的な問題から縮小せざるを得なくなったわけですが、ただ21世紀にもなつてよくよく考えてみたら、なんでも自分でやろうという発想が前時代的だよね、と。自分たちができないことは外から人を呼ばばいいし、連携すればいい。すでに中之島には大阪市立東洋陶磁美術館、国立国際美術館があつて、中之島香雪美術館もできた。大阪市立科学館だつてある。それぞれの機能と特色があつて、そこで自分たちは何ができるかなと考えるようになって、初めて中之島を意識し始めたんです。

**大迫** 周りを見るようになった、と。**植木** そうです。自分でぜんぶやるうとしていた時代は、場所が中之島だろうがどこだろうが関係ないわけですよ。自分たちだけでは何もできないと気づくと、自分たちがいる場所はどこかと考えるようになる。そうやって5〜6年ほど前からいろいろな人たちとの連携事業や共同プロジェクトを積み重ねていて、いよいよ美術館が建設されるといふタイミングで木ノ下さんからお話があつた。偶然なのか時代の要請なのかはわかりませんが、とても面白いなと思ひましたね。

### 中之島の課題は本当に「回遊性」なのか？

**大迫** そうした状況の中で、今回のようなプロジェクトが生まれてくる背景には、中之島の現状の問題点も関わっているのですが、その点はどのように考えておられますか？

**白倉** 京阪電車中之島線によつて東西の軸ができて、もちろん以前よりはずつと良くなったんですけど、中之島といえ基本的には淀屋橋周辺と私たちがいる四つ橋筋周辺に塊があるという感じで、それより西へ行くとなかなか回遊できない状況は今もまだあると思うんですよ。

**木ノ下** エリアマネジメント的な観点から言えば、中之島は広すぎるんです。

東西3・3kmというのは短いように思えて、よく都心の街づくりの例に挙がる東京の丸の内や日比谷と比べれば格段に広い。だから結局は白倉さんがおっしゃったように、ゾーンに分けて考えないといけなくなる。

**白倉** だいぶ先にはなりますが、なにわ筋線(2031年度開業予定)ができるともまた違うのかもしれない。ただ、今はまだやっぱり西の方へ行くのは遠いし、電車で3駅くらい行かなくてはいけないというのには確かにエリアとして広い気はしますね。

**植木** 中之島にいと愛が生まれてくるから、それゆえに周りが見えなくなつて、「大阪の中心だし」という風な考えに陥りがちなんです。でも、外から見た中之島は、何でも揃つていられるけれど決して行きやすい場所とは認識されていない。今、たくさんの人と協力して開館後の展覧会を準備しているわけですが、「やっぱり肥後橋からがなんか遠いんだよね」と言われるんです。よくよく話を聞いてみると結局それは心理的なもので、実際の距離とはあまり関係がないのですが。

**大迫** 月刊島民の取材の中でも、中之島の課題となると必ずこの「回遊性」というワードが出てきます。中之島を訪れた人がいろいろな施設を見て回るというふうなイメージなのかもしれませんが、いくら文化や芸術に関わるス



す。だから、今回あえて多くの施設と連携しているのは、中之島から逃れられない人たちということ。

**植木** 大丈夫ですよ。ちゃんといますから(笑)

**木ノ下** やっぱ、その土地に根ざしているという信頼感であると思うんです。中之島のことを真剣に考えざるを得ない切実さや責任感がある機関や人と一緒にやった方がいい。その切実さはきっとエリア全体に対する切実さにつながってくると思うし。

**白倉** 確かに中之島から出ることはできませんからね。

**木ノ下** 今年度はアートエリアB1からの一方的な提案が多かったのですが、先ほど植木さんがおっしゃったように各施設のコンテンツをご紹介いただきながら、一緒に企画を進めていける時間と余裕がほしいですね。美術館などは3年や5年先を見据えて動いておられる中で、私たちは下手をしたら1ヶ月先とかの単位で動いている。そういう時間的なズレはどうしても生じるんですが、そのぶん速攻性はあるので、そこを活用してもらえたらいいのかなと思います。

## 散らばっている点を線で結び、名前をつける。

**大迫** ここまでお話を聞きながら面白いなと思ったのは、結局は人と人との

つながりや顔の見える関係性みたいなものに着地するんだなという点ですね。

**植木** 本当にそう思います。このプロジェクトの感じ入るところは、「都市の地質調査・再耕事業」というところ。つまり、今あるものをまず大事にするというスタンスです。人にしても中之島にいる人をまずは結んでいて、その結び目があるからこそ、外からまったく別の視点や感性を持ったアーティストがやってきても大丈夫なんだと思う。人のインフラ、今までは独立した

「点」だったものをつなげていく作業は、外から来た人が去っても財産として残り、積み重なっていく。だからすごく安心感がある。そこが単なるお祭りとは大きく違うし、ポテンシャルをものすごく感じる部分ですね。

**大迫** 中之島には文化や芸術関連のさまざまなスポットがあるわけですが、それは言い換えれば専門家や一芸に秀でた人が集まっているということ。そういう人たちは自分の専門分野において活動的で発信力もある一方で、中之島全体として見れば「点」が散らばっているだけになっていたりするからナビゲーター的な存在がいると心強いですよ。

**木ノ下** 私はこのプロジェクトを星座に例えるんですよ。星の一つ一つは数多の光っている星なんですけど、それらをつないで形にして蠟燭やオリオン

座といった名前をつけることで姿形が現れてくる。クリエイティブ・アイランド・ラボって、そういうプロジェクトじゃないかなと思うんです。輝いている星たちが繋がって名前が生まれることで、だんだんと「中之島ってこういう場所だよ」という一つの人格が生まれてくる。だから、まずは星座のように線をつないで名前をつけるのが第一歩で、それを広めるための努力はみなさんと共に知恵を出し合いながら対話していきたいと思うし、変化していきたい。

**白倉** 人のつながりに関して言えば、今やろうとしているプロジェクトはアートエリアB1や各施設など何かを仕掛けようという側の論理ですよ。それだけではなくて、今後は中之島に来てくださるお客さんも巻き込んでいかなきゃいけない。東京で話を聞くと、ここへアクセスできる人はどこに住んでいようが地元の人だと考えて、それを常に意識しているそうです。最終的にはクリエイティブ・アイランド・ラボのコンセプトに共感してくれる人たちを組織化して、そういう方々が参加できるようなネットワークを持っていたいですよね。

**大迫** さて、今年度も2月・3月のプログラムは残っていますが、それを超えて、将来的にどのような可能性をこのプロジェクトに対して抱いておられ

ますか？

**木ノ下** 時世的な事実で言えば、2021年度に開館する大阪中之島美術館が新たな中核になってくるのは間違いないので、とても期待しています。

**植木** そう言っていたんだけど本当にありがたいですが、でも我々もずっと言っているのは、中之島に人が来るようにならなければ美術館にも来てくれないということ。自分たちが成長するために中之島と一緒に成長していくやり方を考えないと。大阪中之島美術館だけにお客さんが来て、あとは知らないということでは絶対にうまくいかかるんです。

**木ノ下** あと、大きなポテンシャルだと思うのは、中之島で働く何万人というオフィスワーカーのみなさんです。自分たちの足を働く場所としてだけではなく、クリエイティブな街であることに気づき、積極的に参加してほしい。

**大迫** 中之島フェスティバルタワー・ウエストにある中之島雪雪美術館は、まさにそうした人々にこそ足を運んでほしい立地ですよ。

**白倉** そうですね。働いている方々や隣のフェスティバルタワーにもご案内を出したりはしていますが、今のところまだまだこのロケーションを活かしているとは言えません。逆に、遠方か

## 2月・3月にもあります! Schedule

今回のプロジェクトはまだまだ今後も続いていく。今月や来月にも、アートエリアB1が中之島の各施設とコラボする楽しみなプログラムが続々。みんなで一緒に考え、つくっていくのがこのプロジェクト。島民諸君もぜひ参加してみたいかが。

2月18日(月)

with フェスティバルホール

### 「音響学から読み解くフェスティバルホールの魅力」

「天井から音が降り注ぐ」と称されるフェスティバルホールを会場に、音響学研究者とホール音響設計の専門家、そして演奏家をゲストに迎え、ホールに込められた技巧と魅力について語り合う。1階席・2階席・バルコニーボックス席などの席を移動しながら、プロの演奏家による生演奏を聴き比べるという普段は絶対に体験できない試みも。



2月24日(日)

with 大阪水上バス & 大阪大学中之島センター

### 「水辺における野外演劇の可能性」

©2018 やなぎみわ

日本の芸能史をたどると水辺や野外は重要な意味を持つ。台湾の移動舞台車による野外公演を行ってきた美術家・演出家のやなぎみわさんがゲストに登場し、船上と陸上で水辺空間と演劇にまつわるトークを開催。



#### 第1部:船上添乗「水辺の生活文化史と演劇」

貸切船で中之島を1周しながら、都市社会学者の山田創平さんとやなぎさんが、水辺の生活文化と演劇との歴史的な関わりについて語り合う。

#### 第2部:トーク「中之島における野外演劇の可能性」

大阪大学中之島センターにて、演劇研究者の永田靖さんをゲストに、やなぎさんの公演を振り返りながら、水辺における野外演劇の可能性について語り合う。

3月2日(土)

with 大阪中之島美術館

### 「中之島建築リパークルーズ」

中之島とその対岸に並ぶ個性豊かな建築群。大大阪時代の近代建築、高度経済成長期から平成の現代建築、そして2021年度に完成が予定されている大阪中之島美術館の計画地まで。それらを地上ではなく空の広い水面から眺めることで、中之島の都市景観の新たな可能性を発見することを試みる。ゲストの倉方俊輔さん&高岡伸一さんと共に船に乗って巡る。



coming soon!!

3月上旬 「中之島連携施設が集うオープンミーティング」

アートエリアB1にて。日程調整中

3月中旬 野口里佳「中之島リサーチプログラム」

日程・会場調整中

■各プログラムの詳細・申し込み方法や  
クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島の全貌は…

<https://nakanoshima-lab.jp/>

ら出張に来られた方が寄ってくださるケースは結構あるんです。外国人の観光客へのアピールもいくつかある課題のうちの一つですね。あとは最近は中之島周辺にもタワー・マンションが増えてきて、小さいお子さんを連れた方も多くなってきました。そういう家族連れの方々に年に1回来てもらうだけでもいいですし、何度かに分けて中之島を回ってもらうのも構いませんしね。

大迫 そのためにはエリア全体の魅力や、木ノ下さんのおっしゃる「人格」を伝えていくことがより大切になってくるのでしようね。木ノ下 都市って生き物なんですよ。そこで唯一言えるのは、正解がないということと、絶対がないということ。成功と失敗はあるかもしれないが、ただ、それもその時代における成功/失敗だったりして、時代を経ればまた価値観や評価も変わってくる。だから、今の時代や少し先の未来を見越した要請の中で生きられる都市であるかが大切なのであって、私一人がビジョンを

持つのではなく、みなさんとお話をして、「中之島はすごく創造的な島だよ」ということを共有しながら創造と発信をしていきたい。ひとまず地質調査に着手できたので、次は誰と何を開拓してどんな種を蒔いていくのかは今後の課題ですね。文化の語源は農業のcultivateですから、地質調査で耕して、どこがポイントなのかを見つけて、どこを植えていくのか。そうやって手をかけなければ、ものは育たない。

大迫 中之島が歴史文化や芸術と縁が深いこと自体は、これまでずっと語られてきたことですが、今回こうして「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」という言葉が生まれてきたことが大きい。これによって、中之島にいるたくさんの個性的なキーパーソンが集まりやすくなる「関わりしろ」ができたと思うんです。誰かのものではなく、みんなが自然に意識するような形で定着していけばいいですね。期待しています。みなさん、今日はありがとうございました。



ナカノシマ大学  
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の  
懐徳堂  
プロジェクト

東西対決が  
ついに実現!

◎今月の授業

# 【地形】

2019年3月講座

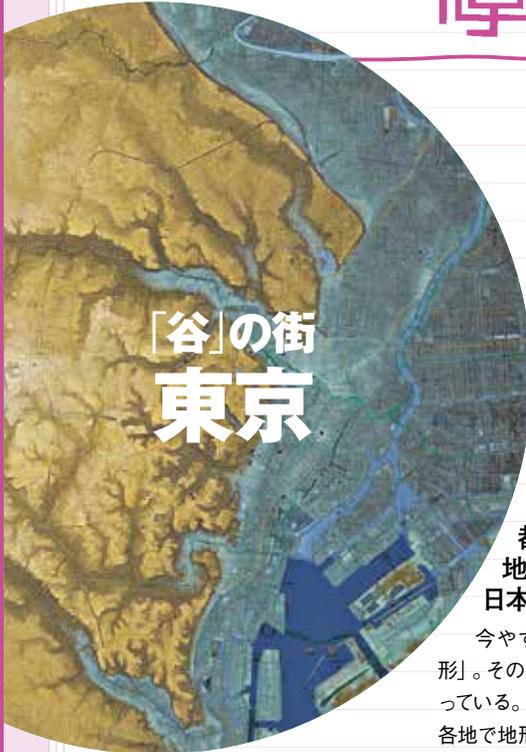
## 「東京vs大阪 地形自慢バトル」

対談／皆川典久(東京スリバチ学会)

新之介(大阪高低差学会)



大阪・天満橋付近の高低差。平らな街と思いきや、意外にデコボコの多い大阪。そこに歴史のヒントがある。



「谷」の街  
東京

都市のなりたちを表す  
地形の魅力と楽しみ方を、  
日本の2大都市を比較しながら学ぼう!

今やすっかり街歩きのキーワードとなった「地形」。その土地のなりたちは街の歴史と密接に関わっている。NHK『プラタモリ』の人気もあって、全国各地で地形に関する本が出版されている。

今回は東西のスペシャリストのお二人が揃う豪華な対談。東京代表は地形ブームの火付け役と言っても過言ではない、東京スリバチ学会の皆川典久さん。大阪代表は3月に第3弾の地形本を出版する大阪高低差学会の新之介さんだ。

谷沿いに街が形成されていった東京は、アップダウンが多く、まさにスリバチのような地形が点在している。一方、上町台地を除いてほとんどが海の中から浮かび上がるようにできた大阪は、街の中にある高低差がポイントとなる。そんな2都市の違いを地形という側面から比較し、自慢し合ってもらいながら、互いの新たな魅力を発見しよう。



「洲」の街  
大阪



東京・赤坂にある薬研坂。これぞスリバチ! と言いたくなる地形。東京にはこのようなアップダウンがとにかく多い。

募集要項	<b>「東京vs大阪 地形自慢バトル」</b>	お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。
	日時／2019年3月24日(日)	〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号
	11:00AM~0:30PM頃(開場10:30AM~)	「ナカノシマ大学3月講座」受付係 FAX.06-6484-9678
	会場／大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)	※先着順で受付後、 <b>2月20日</b> 前後より受講票をお送りします。
	受講料／2,000円	※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。
定員／150名	※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。	
主催／ナカノシマ大学事務局	※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。	

ナカノシマ大学の最新情報は

<https://nakanoshima-daigaku.net/>

ケータイや  
スマホからは  
こちら!→



お問い合わせ  
☎06-6484-9677  
(ナカノシマ大学事務局)

# 二月席の内幕

申込受付中

●お題「葬送」

## 「正しい埋葬礼」

百舌鳥・古市古墳群が、ユネスコによる世界文化遺産登録を目指して活動しているのはご存じだろうか。古墳に埋葬された埴輪などの副葬品にはさまざまな意味が込められ、また多くの儀礼も執り行われたようだ。さすがに古墳時代の落語はないが、お葬式や死者との対話などはよくネタにされるどころ。縁起でもない？ いやいや、ご遠慮なく笑ってください。

落語／笑福亭喬若「けんげしや茶屋」

桂雀五郎「くやみ」

露の団四郎「夢八」

笑福亭仁扇「死神」

笑福亭松喬「へつつい幽霊」

鼎談「古墳の笑い声」

ゲスト／山田幸弘

(藤井寺市世界遺産登録推進室長)

高島幸次(大阪大学招聘教授)

桂春團治

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中!

開催日／2019年2月25日(月)

開演時間／6:30PM(開場6:00PM)／受付開始5:45PM)

受講料／2300円(通常・前売2500円)／当日3000円)

お支払い方法／当日(5:45PM)、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP10を参照してください。



トリの笑福亭松喬さんは「へつつい幽霊」。先代の師匠である六代目松鶴の得意ネタをかける。

笑福亭仁扇さんの「死神」は、まさしく死神に出会ったしまった男の物語。その末路とは…。

ゲストの山田幸弘さんは、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録のために奔走する一人。その秘策とはいかに?

イラスト／フジワラトモコ

# 十二月席の二コマ

鼎談「新宮司と新会長が語る」

寺井種治(大阪天満宮宮司)

笑福亭仁智 高島幸次

御茶湯御礼

高島 今日(2018年)の4月に大阪天満宮の新宮司に選ばれた寺井種治さんと、6月に上方落語協会の新会長に選出された笑福亭仁智師匠にお越しいただきました。ネタも天神さんにまつわるものばかりでしたが、寺井宮司はいかがでしたか？

寺井 天神さんへお参りする時に、お店がたくさん並んでいる様子や賑やかな場面がたくさん出てくるのが嬉しかったですね。『初天神』では幼い子供が飴を買ってもらったり、天満宮が庶民の生活にとって身近なことに感動しました。

高島 笑福亭たまさんの「菅原君の祟り」は、会社で左遷に遭った菅原くんが上司を祟るといいます。仁智 聴きながらヒヤヒヤしたわ。

寺井 天神祭も出てきて、いかに天満宮が儲かっている感じになっていましたが、そんなことはありませぬので(笑)。上方落語協会でもトーンと大きな船でも出していただけならありがたいのですが、仁智 しゃあない、繁昌亭を値上げしよか(笑)

高島 この後、トリは桂春團治師匠の『天満の白狗』ですが、これは「元犬」というネタを、前会長の桂文枝さんが天満宮を舞台に改作された嘸なんです。ところで、仁智 師匠にお願いがあつたのですが、前会長がそうしてネタをつくられたんですから、ぜひ天満宮を舞台にした新しいネタを創作していただませんか。

仁智 喜んでつくりますよ。ただ、2500万円かかりますけどね。

高島 そんな無茶な！

仁智 それだけあれば繁昌亭の空調設備を新しくできるんです。

## 毎

年恒例、中之島まちみらい協議会が開催するNAKANOSHIMA STYLE.COMフォトコンテスト。昨年9月から11月にかけて募集され、応募作品152点の中から最優秀賞および優秀賞が選ばれた。

第13回目となる今回のテーマは「絆」だった。中之島で絆とはなかなか難しいお題のように思われたが、絆そのものを風景の中に見つけた作品もあれば、あたたかみのある写真のイメージから絆を連想させるものもあった。

写真とは、一瞬を切り取るもの。最優秀賞に輝いたmaxakichiさんによれば、この作品はまさに絆が生まれた瞬間を写したものであった。

2018年の5月に中之島公園にバラを撮りに行った際に、たまにまいらつしゃつたのがサックスを吹いている方でした（写真中央）。その時の縁で、ときどき演奏風景などを撮らせていただくようになりました。この写真を撮った時も、何人かの仲間とともに公園で待ち合わせし、演奏風景を撮らせてもらっていました。その時にたまたま通りかかったのが、一番手前で写っている方です。パフォーマーの方で、楽器を見かけて声を掛けてきたとのことでした。すぐに打ち解けて



**最優秀賞** 『no music no life』  
撮影場所:ばらその橋(中之島公園) 撮影者:maxakichiさん

# 中之島は「絆」のある風景に溢れていた。

一緒に撮らせてもらったのがこの写真です。パフォーマーの方はふだん関東にお住まいなので、直接会うことはなかなか叶いませんが、SNSなどでのやり取りは続いています。ですので、音楽によるつながりや絆といったもの

を実感しながら応募させていただきました。今回最優秀賞をいただき、とても光栄に思います。偶然に生まれた絆を祝福するように、オフイスビルが夜空を照らしている。とても中之島らしい風景だ。

## 優秀賞



『パノラマに暮れる』  
撮影場所:コンラッド大阪  
撮影者:kotarokanfilmさん



『OMMビルから見る中之島公園の夕景』  
撮影場所:OMMビル屋上  
撮影者:take\_landscapesさん



『歴史を感じて』  
撮影場所:大阪市中央公会堂  
撮影者:us-hiroさん



『中之島夜景』  
撮影場所:御堂筋  
撮影者:quanghung\_photoさん



『背中越しに見る世界』  
撮影場所:中之島公園  
撮影者:やなぼんさん

フォトコンテストの入賞作品は、京阪電車にわ橋駅のアートエリアB1内に展示されているほか、中之島まちみらい協議会のウェブサイトでも見られる。  
<https://www.nakanoshima-style.com/>

大阪水上バス・岸田俊徳の

## 水辺で会いましょう



大阪水上バス株式会社企画宣伝部課長。ミナミの劇場プロデューサーを経て、関西・大阪21世紀協会にて大阪の文化事業に関わる。2010年より現職。

### 「観梅もまたよし」

昨年12月に京阪電車なにわ橋駅にあるアートエリアB1で「観光船企画会議」という講座をしてきました。大阪水上バスの開業から35年を振り返り、未来の観光クルーズを検討しようというものです。

それにあたり、ずいぶん過去のチラシや新聞記事をひっくり返したのですが、気になったのが「梅」。桜じゃなくて「観梅クルーズ」。大阪城公園にはきれいな梅園があり、実は季節になると多くの人が梅を見に来られます。カメラを持ったご年配の方も多く、良い写真を撮られるので、一時期は大阪城港に展示していたこともありまして。これってアナログ版インスタですよ。



大川（旧淀川）沿いにも梅の名所があったようで、「源八を わたりて梅のあるじかな」という与謝蕪村の句があります。大阪天満宮なども有名ですが、桜よりも淡い感じがするのは、梅のよさはある年齢にならないと感じないからなのでしょう

か？ 少しでも春を先取りできるあたりに、「大人感」が漂っている感じがします。

まだまだ寒い2月。観梅の後は冷えた体を船内で温めながら、早春の水辺を楽しんでみませんか。売店には温かいお飲みものも用意していますよ！

大阪水上バス 梅

☎0570-035-551



<http://suijo-bus.osaka/>

# 月刊島民も登場！ ローカルメディアを考える会議



ご存じの通り、月刊島民は中之島を舞台としている。こうした特定の地域をテーマとするローカルメディアは、フリーマガジンやウェブサイトなどさまざまな形態をとって全国で発行されている。

そんな中、3月3日（日）に開催される「まちを楽しむ！千里大編集会議」は、各地でローカルメディアを発行するキー



パーソンが集い、参加者と共に千里にふさわしい情報誌とどんなものかを考えるイベントだ。

尼崎のポツプなフリーマガジン『南都



## トウミン月報

2019年2月1日発行

### 「まちを楽しむ」千里大編集会議

日時 / 3月3日（日）  
2:00PM~4:00PM  
会場 / 豊中市千里文化センター  
「コロポ」多目的スペース  
入場料 / 無料  
定員 / 150名  
申し込み / 当日先着順  
※一時保育の申し込みも可能。  
2月25日（月）までに要申込。

再生」を発行する若狭健作さん、箕面を拠点に北摂のママに向けた情報誌『ママトリエ』の代表である小西美由紀さんに加えて、月刊島民編集発行人の大迫もパネリストの一人として参加する。

イベントでは参加者にも意見を求めながら、まさに編集会議のように展開することなど。地元の人はもちろん、ローカルメディアが好きな人もぜひお越しを。一緒に新しいメディアを考えてほしい。

本紙の表紙画でおなじみ、奈路道程さんの描いたイラストが中之島香雪美術館の「顔」としてデビューを果たした。

昨年の4月号の特集で表紙を飾った笑顔の村山龍平翁のイラストが、まずはTwitterのアイコンとして登場するほか、今後、ウェブサイトや各種広報物など、さまざまな場面で

# 奈路画伯のイラストが中之島香雪美術館の「顔」にデビュー

の活躍が期待されている。

朝日新聞の創設者であり、美術の収集家としても名を馳せ、「数寄者」としても知られた龍平翁。今後目にする機会が増えるかもしれない。島民読者諸君はぜひチェックを！





## 「少人数制で、一人ひとりのお子さまの個性に合った対応を心掛けています」

当園では、月齢3ヶ月から就学前までのお子さまをお預かりしています。デイケアと一時預かりがあり、デイケアは週1〜5日までの好きな曜日を選んでご利用いただけます。一時預かりは、フェスティバルホールなどにお越しの方のためのサービスです。最大19名までの少人数制で、一人ひとりのお子さまの個性に合った対応を心掛けています。

デイケアの場合は、登園後、まずは朝の準備を終えてから遊びます。月齢の低いお子さまには、午前中にも睡眠をとり、心も体もすっきりした状態で、私たち保育士が見守る中、好きな遊びを選んで楽しんでいきます。睡眠はとても大切なんです。昼食とおやつは当園でご用意しています。専属の栄養士が事前にアレルギーや好き嫌いを尋ねるようにしていますが、嫌いなものでも少しずつチャレンジしていきます。案外、ここで食べられるようになることも多いんですよ。「みんなと一緒に楽しく食べる」ということも食育の一環なので、保育士も一緒にいただきます。こどもの日々や七夕などの



ライオンの顔に洗濯バサミでたてがみをつける机上遊び。

伝承行事の時には特別メニューがあるので、私たちもとても楽しみなんです。



お天気の良い日は、フェスティバルタワーの外にお散歩に出かけます。土佐堀川沿いの緑豊かな遊歩道は季節を五感で感じることができて、子どもたちは探索しながら、視野を広げ楽しんでいきます。発達年齢2歳以上は鞆公園まで足を延ば

したり、月齢によって散歩のコースも変えています。

保育室では、椅子に座って机の上で遊びながら学ぶ「机上遊び」もしています。スプーンの使い方ひとつをとっても、食事の時にすると楽しく食べられなくなるので、遊びを通して伸びていこうとする「育ち」のお手伝いをしていきます。例えば、小さなまゆ玉を同じ大きさの穴の中に入れてという動作だけでも、集中して指先を使って遊べるんですよ。机上遊びのおもちゃはほとんど手作りで、子どもの発達を促して保育士全員でアイデアを出して作っています。また、さまざま安全対策にも取り組んでいます。乳幼児は睡眠中の事故が多いので、お昼寝の時

楽しく遊びながら学びましょう。

### 「キッズスクエア」中之島フェスティバルタワー店 保育士 万智代さん

は5分おきに睡眠チェックを行います。万が一に備えて、保育士は救命救急の研修を受けてAEDも設置しています。保護者の方が安心してお任せいただけるような環境づくりにも配慮しています。



祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>  
提供/株式会社 朝日ビルディング

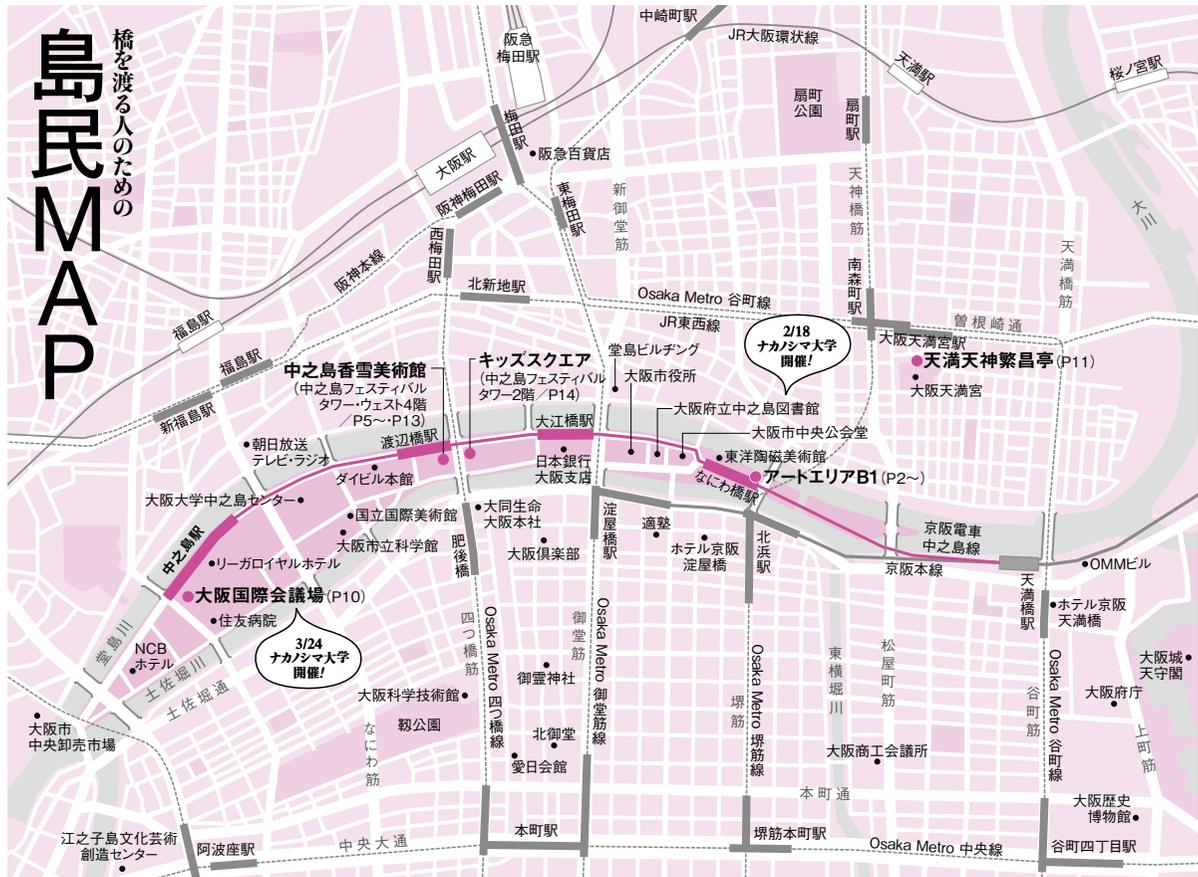
#### Information from キッズスクエア 中之島フェスティバルタワー店 [中之島フェスティバルタワー2階]

土佐堀川を望む南向きの明るい窓から陽が差し込む園内では、月極保育(0歳~未就学)の他にフェスティバルホール等施設の利用時の一時預かり(0歳~小学生)にも対応。月極保育では、食育やアレルギーにも配慮した手作りの昼食、おやつも用意されている。保育料などについてはまずは問い合わせを。  
☎06-4708-8115 8:00AM~7:00PM(平日のみ。ただし延長保育は10:00PMまで)



# 島民MAP

橋を渡る人のための



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪グループ 京阪電車主要駅 / 京阪特急プレミアムカー / ホテル京阪 淀屋橋 / ホテル京阪 天満橋 / ホテル京阪 グランデ / パナテ京阪天満橋 / 京阪シティモール / 京阪モール
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店 / 大阪高森内ブックセンター / 紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店 / ジュンク堂書店 / MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店 / 文教堂書店 淀屋橋店 / 隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイススポット / 朝日カルチャーセンター / 味の素 食のライブラリー / 朝日放送テレビラジオ / 大阪企業家ミュージアム / 大阪倶楽部 / 大阪工業技術専門学校 / 大阪国際会議場 / 大阪市中央公会堂 / 大阪市立科学館 / 大阪市立総合生涯学習センター / 大阪府役所市民情報プラザ / 大阪城天守閣 / 大阪商工会議所 / 大阪大学中之島センター / 大阪21世紀協会 / 大阪府立中之島図書館 / 大阪ボランティア協会 / 大阪歴史博物館 / 追手門学院 大阪梅田サテライト / 川の駅はちけんや / 関西学院大学 大阪梅田キャンパス / 慶應大阪シティキャンパス / 国立国際美術館 / CITYNAIL'S インターナショナルスクール / 芝川ビル / 市立住まい情報センター / 少彦神社 / 中央電気倶楽部 / 適塾 / ドーナチャ / ホテルNCB / メビック扇町 / 立命館大阪オフィス / 龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など] アンドール 本町本店 / 上町貸自転車 / Ultra 2nd / 江戸前鯉料理 志津町 / 天満橋鍼灸整骨院 / MJB珈琲店 / エルマーズグリーン コーヒーカウンター / 大西洋服店 / OOO(オー) / カセッタ / 喫茶カンターロ / 喫茶SAWA / グランスイート中之島 / 黒門さかえ / コモンカフェ / The Court / サトウ花店 中之島本店 / ザ・メロディ / シアトルベストコーヒー新聞電ビル店 / しろろ亭 / Girond's JR / 心齋橋山田兄弟歯科 / 住友病院 / センイレブ 大阪証券取引所店 / タビスタイル / たまがわ鍼灸整骨院 / 東郷歯科医院 / NAKAGAWA1948 淀屋橋店 / ナンジャー / パストラーレ / 花かつ / BAR THE TIME 天神 / 平岡珈琲店 / ビルマニアカフェ / FOLK / フレームハウス / ミニジロ / 宮崎歯科 / やきとりばかや / 吉田理容所 / LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 旭屋書店 なんばCITY店 / 紀伊國屋書店 京橋店 / 喜久屋書店 阿倍野店 / ジュンク堂書店 難波店 / 福島書店 / 柳々堂 / ルーブル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪科学技術館 / 大阪市社会福祉研修・情報センター / 大阪市立中央図書館 / 大阪府立江之子島文化芸術創造センター / 川口基督教會 [店舗・医院など] あじさい / アートアンドクラフト / 欧風食堂 ミリール / 大阪シティ信用金庫 江戸堀支店 / 御舟かもめ / カルチャーカフェ上 / Calo Bookshop and cafe / 写真とプリント社 / 鳥かごキッチン / ネイルサロン スワン / パルピコ / ホステル64企画部 / MANGUEIRA / Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店 / 学運堂 / Books 呼文堂 / 水嶋書房 ぐずはモール店 / 大阪狭山市立図書館 / 大阪市立難波市民学習センター / 大阪大学企画部広報・社学連携事務局 / 大阪大学 21世紀懐徳堂 / 大阪大学本部 / 大阪府立中央図書館 / 摂南大学 地域連携センター / 野村呼文堂 / 郵政考古学会 / ゆったりんこ / 連携者 児童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店 / 恵文社 一乗寺店 / 水嶋書房 丹波橋店 / 伊丹市文化振興財団 / 川のほとりの美術館 / 納屋工房 / タバーン・シンパソン / 百練 / 奈良県立図書館情報館 / 龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店 (千駄木) / BOOKSルー (吉祥寺) / B&B(下北沢) / 隣町珈琲(原宿) / ONLY FREE PAPER(東小金井) / かもめブックス(新宿)

## ◎バックナンバーが見られます。

最新の発行と同時に、ひとつ前の号がweb上で閲覧できるようになります。創刊号から見た方はこちらから。<https://nakanoshima-daigaku.net/about/tomin/>

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 ダンナさんのおかげです

図書館や公会堂といった公共施設の建設や美術品のコレクションなど、現在の中之島の姿は、「ダンナさん」の存在なくしては語れない。

●『月刊島民』vol.128は2019年3月1日発行です!

編集・発行人 / 大迫力(株式会社140B)  
 編集・発行 / 月刊島民プレス  
 若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
 松本 創 道田恵理子 山國恭子(株式会社140B)  
 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号  
 TEL.06-6484-9677 FAX.06-6484-9678  
 制作進行 / 堀西 賢(ALEGRESOL)  
 デザイン / 山崎慎太郎  
 表紙イラスト / 奈路道程  
 印刷 / 佐川印刷株式会社

あなたの京都が、  
見つかりますように。



二年坂  
(京阪電車 清水五条駅下車)  
「京旅館 おけい庵」  
三条けい子

京阪のる人、  
おけいはん。

京阪で、おこしやす。

<https://www.okeihan.net>